

たてごと

弘前学院大学
宗教部
宗教主任
楊 尚眞

〒036-8577
弘前市稔町
13-1

良い習慣は幸福を生み出す

宗教主任 楊 尚眞

世の多くの人が悪い習慣に陥り、自分の人生を粗末なものにしている。悪い習慣は数えきれないほど多くあるが、その中でも、社会問題となっている薬物依存症、ギャンブル依存症、アルコール依存症、ネットゲーム依存症、スマホ依存症は、悪い習慣から始まり、容易に止めることができず、後々、体と心を蝕んでしまい、人生を壊してしまふ悪の力となる。

一方、良い習慣も多くあるが、出来るだけ良い習慣をたくさん身につけるほど自分の人生にとってプラスとなり得よう。

「学びましたか。」
すると、科学者は「幼稚園です。」と答えた。続いて、

記者は科学者に「幼稚園でどんな重要なことを学びましたか。」と訊いた。科学者は、「習慣を学びました。自分のものではなく、取ってはならず、物を良く整理して、誤りを犯せば、正すことなど、こんな習慣ですよ。」と答えた。科学者の応答はジョークではなかった。彼は、幼い頃から身に着けてきた良い習慣が成功と密接な関係がありそれが成功の基礎であると強調したのである。

から2年後には学校をやるめりかなく、兄の印刷所で働くしかない状況の中に入ってしまった。しかし彼のきわめて厳しい生活状況は自分の学業に対する熱情を奪うことはなかった。彼は工場で仕事をするときにも、本を読み、食事や就寝時間も欲しまず勉強した。20歳になったフランクリンは自制力、慎重さ、秩序、強さ、節約、誠実、勤勉、公正、寛容、平安、切実さ、忠誠などを自分の生活習慣にした。その結果、彼はアメリカに大きく貢献した人物になることができたのである。

聖書のヘブル人への手紙10章25節には、悪い習慣と良い習慣について語っている。「ある人たちの習慣に倣って集会を怠ったりせず、むしろ励まし合いましょう。かの日が近づいているのをあなたが見て知っているので、ますます励まし合おうではありませんか」

ここでは集会を怠る悪い習慣と励ましあう良い習慣を言っています。

私たちは、何が良い習慣であるか、何が悪い習慣であるのかを良く分別しながら各自の生活をするべきである。習慣とは恐ろしく強力なものでそれは人生を左右する力がある。どんなに良い考えをもつて生きていても悪い習慣を続けられれば、その悪い習慣が人生を害することはいくらでもある。誠実に勤勉であっても、不摂生な生活をし、健康管理を怠れば、病に伏してしまうこともある。

ヘンリーフォードは、世界的な自動車会社であるフォード社を創設した人であるが、彼は、学校を卒業した後、ある自動車会社への入社を志願した。彼は、他の志願者たちの学力がとても高いことを知り、自分は入社できないと思うたが入社面接に行ったら、トイレの前で待機していた彼は目の

前にちり紙が落ちていたのを見ると、すぐにちり紙を拾ってゴミ箱に捨てた。その時、その会社の会長が偶然に彼の善行を見たのであった。フオードが面接室に入った時、会長は、彼に「フオードさん、あなたはもう採用

されました。」と言った。フオードにとって思ってもみないことが奇跡的なことが起きたのである。良い習慣とは人生において良い影響をもたらす、幸福にさせるものである。良い習慣は、人生の旅路において勝利に導く道を

開く鍵となる。弘学の皆さん、かけがえのない人生の幸福のために悪い習慣を棄て去り、良い習慣を身に付けようではありませんか。

秋の特別礼拝 (二〇一九年十一月七日)

「わたしたちはどこから来て、どこへ行くのか?」
 「生かされているのはなぜか?」

「声なき者の友」の輪

代表 神田英輔先生

この世に生を受けた私たち人間は、例外なしに必ず「死」という現実に向面します。「私たちどこから来て、どこに行くのか?、生かされている

のはなぜか?」という問いかけは、古今東西を問わず、多くの人々が心に抱いてきたものではないでしょうか? 私自身も例外ではありません

ませんでした。家業を継ぐのが当然と期待されていた私でしたが、やがて外交官になって世界で活躍したいという夢を持つようになりました。その

ためには英語が必要であると考えていた時に出会ったのが、無料で英語を教えしてくれる「キリスト教の言教師」でした。この宣教師との出会いを通して、私は自分でも説明できない不思議な体験、「人を造った神」と出会う体験をさせられたのです。この体験こそが、私の生涯を意味あるものにしてくれた人生最高の重要な出会いでした。人間は「永遠」を想うものです。ですから歴史を通して多くの宗教や神々が生み出され崇拜の対象が作り出されてきました。私のそれまでの生涯で馴染みのあった神々は、私たちが頑張って祈禱を捧げ、修行をし、努力を要求するものでした。しかし聖書を学ぶうちに

「が」造った神ではなく、人「を」造った神の存在でした。「進化論」という仮説は、私たちを「今だけ、カネだけ、自分だけ」という生き方に導くものでした。時計が意図をもって造られているように私たちも知性を持つ何者かが意図をもって造ったという聖書の説明は私に意味ある生き方を提供してくれました。「人を造った神」は、「愛の神」であると同時に「義の神」です。「血を流すことなしには罪の



赦しはありえない」（新約聖書）と聖書に記されていますが、神は血を流すことによつて（旧約聖書の時代は羊、そして最終的には神の子羊・メシア）私たちが神と和解する道を準備してくださいました。これが「福音」（良いニュース）です。

先月22日、天皇陛下の「即位礼正殿の儀」に合わせて「恩赦」が行われました。「恩赦」とは、皇室などの慶弔時に行政権（議会）によつて国家の刑罰権を消滅させ、効力を軽減させるものですが、今回は約55万人が「復権」の恩赦の対象となりました。昭和天皇の崩御「大喪の礼」の際には、約100万人が恩赦の対象でした。罪を犯した人々の更生を願つて作り出された制度だと聞いています。

「人を造つた神」は、神から離れて滅びの道を突き進んでいる私たちが

神に立ち返り、更生した道を歩き、神と「愛の關係」を回復して欲しいと願つて、「神の恩赦」を準備してくださいました。私たちがとの關係を回復するために、神自らが犠牲を払つて、私たちの罪のための償いをし、愛を示された。これが十字架だつたといふのです。

「意図」をもつて私たちを創造された神は、神との關係を回復した者たちを「世の光」「地の塩」として用い、この世界に正義と公正をもたらすために神と共に働いて欲しいと願つておられるといふのです。

「見よ、わたしは戸口に立つて、たたいている。だれかわたしの声を聞いて戸を開ける者があれば、わたしは中に入ってその者と共に食事をし、彼もまた、わたしと共に食事をするのである。」（ヨハネ黙示録3：20）といふこのお方の呼びかけに

開き、生きていくことの意味を発見し、これまで77年間、充実した人生を送ることができています。弘前学院大学で学ぶあなたにもこのお方に心を開

礼拝感想文

秋の特別礼拝

「わたしはどこから来て、どこに行くのか？今、生かされているのはなぜか？」

看護学部 看護学科
二年 赤石野乃子

き、このお方と共に生き、世界に公義と公正をもたらす神の業に参画する者になつていただきたいと思います。心から願っています。

今回の礼拝で印象に残つた説教は、神田英輔先生の「私たちはどこから来て、どこに行くのか？今、生かされているのはなぜか？」という説教です。

最初に、この説教を聞いてみて、自分の将来考へ方について変わりました。神田先生は、ご自身のお家の稼業を継ぐのが

今回の礼拝で印象に残つた説教は、神田英輔先生の「私たちはどこから来て、どこに行くのか？今、生かされているのはなぜか？」という説教です。

最初に、この説教を聞いてみて、自分の将来考へ方について変わりました。神田先生は、ご自身のお家の稼業を継ぐのが

当然と期待されていたけれど、外交官となり世界で活躍したいという夢をもちはじめ、そのために英語を勉強しなければならぬと思ひ出会つたのが、無料で英語を教えてくれた「キリスト教の宣教師」の方でした。そこから、神田先生の人生が変わつてきたのではないかと思います。

私は将来、看護師になるために現在、看護学部で勉学に励んでいます。看護師になるうと思つたきっかけは自分からではなく、母の影響が強くあります。私の母は看護師で、小さいころから将来は看護師になればいいと教え込まれてきました。それはまるで洗脳のように教え込まれていたの、私は将来、看護師にならなければならないものだと思つていました。しかし、私にも夢ができて、保育園の先生になりたいという夢ができました。しかし、そのことを母に

言うことは怖くて、あまり言い出せずにいました。が、中学校の時に思い切った話してみることになりました。しかし、母は看護師になってほしいと言いました。看護師になった時のメリットや、その分辛いことや大変なこともあるというような看護師の厳しさも教えてくれました。そのような話を聞いて、私は母は本当に看護師になってほしいのだ、自分の将来について真剣に考えてくれていたのだと思います。だから、今私は看護師になるために日々勉強に励んでいます。

私は、神田先生のように自分の夢を追っていくということはできずにいますが、今の看護師になるという夢は最初のきっかけは母であつたけれど、今は私の夢でもあります。自分の夢になったことで、学ぶ姿勢であつたり、実習での学びの大切さなどが重要であると感じてき

ました。そして、看護師になつてからでも、神田先生のように本来の自分の夢に近づけるような仕事にもつづけるかもしれない。看護師になつた場合、幼稚園の看護師になれるかもしれないから、なにかきつかけをつくることで、自分の夢や人生の中で大きな変化につながつてくるのだと思えました。

次に、「人」を造つた神ということについて、私は、神によつて造られたものだから、神は人を愛していて、本当は人に死んでほしくないのではないかとお話を聞いてみて思いました。お話にあつた「天皇陛下下の即位礼正殿の儀」に合わせて「恩赦」という行事が行われました。罪を犯した人々の更生を願つて作り出された制度であるということは、重い罪により死刑を言いわれた人々もいます。そのような人々のためにもこのような行

事があるのではないかと考えました。神は人間を愛してくださるからこそ、誰も人が罰を犯さないように願つているのだと思います。そのせいで死刑になれば、神はとても悲しくなつてしまうのではないかと思いました。また、そのような罰を犯した人々のせいで、死んでしまつた人々や、いじめ

などによるもので自殺をしてしまつた人々もいます。そのようなことを神は望んではいないと思います。神は、神自身がそれぞれ人に決めた寿命まで豊かに暮らし、寿命により死んでいくということを人に望んでいるのではないかと思えます。その神の望みをかなえるために私たち人間は、争いがなく平等な生活を送れるような世界をつくつていかなければならないのだと感じました。人を憎むのではなく、人間と人間同士が「愛し合う」という関係をつくつていかなけれ

ばならないのだと感じました。友達同士、家族同士、恋人同士だけでなく、すべての人に対して、愛するという気持ちを忘れてはいけないと思ひました。私は、今の日本は人生100歳時代というものはのらずに、60歳代からいで寿命にならないだろ

うかと考えていました。しかし、神に造られた命であることを忘れずに、長生きできるように、日々の生活をみなおしながら、生きていきたいと感じました。神に愛されているということも忘れずに生活していきたいと思ひます。

キリスト教文化講演会

(二〇一九年十一月二十三日)

「『長谷川誠三ー津軽の先駆者の信仰と事績』の出版」

岡部 一興

このたび、2019年10月23日に「長谷川誠三」の伝記を教文館から出版することになりました。なぜ長谷川誠三なのか。筆者のキリスト教への関心を述べなければなりません。日本のキリスト教人口は、1%にも満たな

い存在ですが、なぜ多くの人々がキリスト教に導かれたのか、イエス・キリストの父なる神が導いた不思議な力はどこから出てきたのか、そのルーツを客観的に探究したいということからキリスト教史に関心を持ちました。

かつて、1873（明治6）年にキリスト教が弘前に受容され、75年に弘前教会が創立され、そこを起点に藤崎、黒石、五所川原といった農村地帯にキリスト教が受容されて行きました。それらの研究をするなかで、藤崎に生まれた事業家の長谷川誠三に出会いました。長谷川は事業家として教育家として優れた実績を残しているにもかかわらず、歴史に埋もれたままになっていく感がありました。

1977年に「長谷川誠三研究 ある地方事業家の信仰と業績」という論文を書きました。ひとまずこれで終わつたと考えていたところ、2014年に長谷川家の孫、曾孫の方々から一冊の書物にして欲しいという要望が上がりました。それには再度調査をし直して執筆しなければいけないということになり、3回の調査をし研究機関、図書

館などを訪れて、このたび書き上げることができました。この書は、青森県津軽から出たクリスチャン事業家の信仰と業績を捉えたものです。

長谷川誠三は、1857（安政4）年4月に青森県南津軽郡藤崎に生まれ、藤田立策につき漢籍を購読、家塾を開くや、14歳で主任教授として迎えられました。弘前において展開された本多庸一、菊地九郎を中心とする「共同会」なる自由民権運動の結社が誕生すると、長谷川は藤崎地方の委員として活躍し民権運動に邁進しました。ここに本多庸一との出会いがありました。しかし、1883（明治16）年に共同会が解体すると、次第に政治へのよりどころを失い、事業家として活躍することになります。1887（明治20）年C・W・グリーンから妻のいとと洗礼を受けると、酒造業を廃して味噌醤油製造業に

転換し、7町5反歩からなる株式会社の大農経営によるりんご園「敬業社」を開設します。このりんご園が契機となり、あちこちにりんご園が作られて、この「敬業社」が今日の青森りんごを日本一にさせるパイオニア的な働きをしたのであります。1899（明治22）年、彼は弘前女学校の校主となつてキリスト教教育に勤しみました。また藤崎銀行の設立、青森県野辺地での雲雀牧場の経営、秋田県小坂鉾山の開発、石油の重要性に目をつけ、日本石油の大株主となつて活躍しました。さらに社会事業への支援を惜しまずサポートし、1913（大正2）年に北海道東北地方に大凶作が起こると、20万円を投じて約1000トンの米を買い付け、各地で福音講演会を開き、米を配布して窮民を救いました。

その後、長谷川誠三は信仰上のことから藤崎メ

ソジスト教会から、一小教派なるプリマス・ブレズレンへと離脱しました。1910（明治43）年弘前女学校の設立者の名前は消えて本多庸一に変更されました。しかし、その後弘前女学校の講堂や教室増築の際には献金をし、東奥義塾再興にあつては、即座に一万円

の寄附をするなど地方の教育に関心を寄せていました。このたび、11月23日（土）の午後伝記の出版を記念して、かつて長谷川が校主であった女学校が大学を持つまでに発展した貴大学において、講演をさせて頂くことは光栄であると同時に感謝に堪えません。

感想文

「長谷川誠三ー津軽の先駆者の信仰と業績」をめぐって」をきいて

文学部 日本語・日本文学科

三年 後藤悠衣

恥ずかしいことだが、長谷川誠三のことを今まで知りませんでした。そのため、勉強のつもりで講演を聞いていました。講演者の岡部一興先生は

穏やかで紳士的でありました。青森県を代表するりんごの大農経営にも携わっていることに驚きました。私の実家もりんご農家で、

毎日毎日心を込めて美味しいりんごを作るために尽力しています。長谷川誠三と佐藤勝三郎が経営していた敬業社がいち早くりんごに価値を見出し成功したことで、多くの農家がりんごを生産するようになつたと聞きました。それにより、改良を重ね隆盛にいったそうです。また、長谷川誠三は敬業社の出資も一番多く、まさしく青森りんごのパイオニアです。美味しいりんごを食べられるのも、彼の努力のおかげです。感謝の念が絶えません。

また、女子教育の推進にも励んでいたそうです。高校時代の日本史の授業で、母親になり、将来国を発展させていく子どもたちに教育を施すために女性が教育を受けた方がいいという女子教育の大切さを当時の政府の人たちも知っていたと聞きました。津田塾大学の設立者として有名な津田梅子が米国留学したのは18

71年、アメリカ式の教育令が公布されたのが1879年で遺愛女学校の分校として始まった来徳女学校の開設が1886年です。やや遅れての設立であるものの、女子教育の歴史に貴重な一ページを刻みました。その後、本田庸一から女学校を託された長谷川誠三は、「女子は文明を生む母氏なり」を高らかに唱えました。今現在私たちが当然のように教育を受けていますが、長谷川誠三たちが女子教育の重要性を認め、推進してくれたからこそだということを忘れないようにしたいです。

長谷川誠三が手掛けた事業は藤崎銀行・雲雀牧場・小坂鉦山の運営や一大倉庫建設、石油の建言書が挙げられました。社会貢献も多大な功績を残しました。暁星園の創立に命をかけた本郷定次郎や感化教育に勤しんだ本間俊平の援助、地主に問うたり、凶作慰問伝道

をしたりと精力的に活動していました。その中でも地主に問うが印象に残った。日英同盟が結ばれた1902年に東北で凶作がおこり、1904年に日露戦争が勃発しました。この戦争は太平洋戦争と同じくあらゆる物資、兵士を導入してギリギリ勝てた戦争です。そのため、税が重くなり民衆は喘ぎました。しかし、戦争に勝ち、土地・賠償金を得ることを拠り所にする次第です。租税を上げて、地主は収入を減らすことなく小作人の払う小作料を上げた。その時東奥日報に寄稿して政府による重税を批判、租税を上げる前に税率にしました。その結果、まわりの地主からは攻撃されたが、小作人からは大歓迎されました。

長谷川誠三はメソジスト派からプリマス・ブレズレンへ転じました。万人司祭を徹底する信仰に、自分が求めていたものを

見出した長谷川誠三は主の導きによる信仰生活を行いました。

藤崎・弘前で活躍した長谷川誠三の素晴らしい業績の数々を知らなかったことを大変恥ずかしく

思いました。主の信仰に従い生きた彼の生きざまをすっかり覚えていきたいです。神様、この出会いに感謝いたします。ありがとうございます。

礼拝感想文

クリスマス礼拝

「イエスという神のプレゼント」

楊 尚 眞宗教主任

看護学部 看護学科

二年 パークレイ・沙里椰

2019年12月12日に行なわれた弘前学院大学のクリスマス礼拝に私は、初めて参加をした。クリスマスといえば、12月24日の夜においしそうなご馳走がたくさん並んでいるテーブルを家族皆で囲んで楽しく食事をし、子どもはその夜早く眠りに次

の朝起きたら枕元にプレゼントが置かれている風景や寒い冬の綺麗なイルミネーションが待ち並ぶ道を恋人達がならんで歩いている風景などを想像する。

私の幼少期時代を思い出してみると、私の想像通りの楽しいクリスマス

を過ごしてきたが、私は幼い頃をエジプトで暮らしてきたためイスラム教という文化の中で過ごしてきた。エジプトにはクリスマスという文化がない。エジプトで暮らしていた頃は、断食や1日5回のお祈りや豚肉を食べることが禁じられていたりなどその宗教の決まりがある。エジプトで暮らしていた頃はその国の宗教にあわせて生活をしていかなければならない。

私が、日本で暮らしはじめたのは小学校一年生の頃からであり、日本で暮らすとなると日本の文化はまた違ったものである。私はイスラム教徒であるため、日本で暮らすうえで守らなければならないものもある。イスラム教の決まりである豚肉を食べないという事などである。日本にきてから最初の頃は豚肉を食べないという決まりなどは守っていたが、過ごす時間が長くなるにつれ決まりを

守らずに過ごすようになってきた。その時に私が感じたことは、自分が、住んでいる国とその国の宗教が違うと過ごしていくうえで自分の宗教の決まりを守るという事は簡単なことではないということだ。

日本で暮らしていくうちに私は、宗教のことを気にしなくなっていくため大学は弘前学院大学に入学する事を決めたのだ。弘前学院大学で勉強をする宗教の内容はキリスト教であるが、宗教を勉強することを通じて宗教の大切さを学ぶ事ができるのでないかと思ひ、入学した。実際にキリスト教の勉強をしてみると改めて宗教の大切さを感じる事ができる。どのような点で大切さを感じる事ができたかという授業で学んだ聖書ではどんな関係を重要視しているかということである。聖書ではどんな関係を重要視しているかとは神との関係と自己との関

係である。神との関係については「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、あなたの神である主を愛しなさい。これが最も重要な第一の掟である」この言葉について、人は

神との関係が正しい関係となるべき、人のすべての関係において神の正しさを追求していくことができる。これが、キリスト教の倫理であり、道徳であるということである。イスラム教でも神の存在はとて尊重されているため、宗教は違ってもその点については同じ考えなのではないかと思ひ初心を思い出すことができる。

また、自己との関係については、自己との関係とは自分自身の自我と自我の関係であり、世の多くの人が自己との関係が良好ではない。例えば、アルコール依存症、暴食、売春、買春、万引きなどだ。自己との関係がよい人は自己を良く愛

することができるといふ事をするといふ事を学んだ。私の思う自己を良く愛することができるとは自己の考えを尊重し犯罪などに手を出さず自分というものをしっかりと持つて

いる人なのではないかと思ひ感じる。だが、自己を愛するといふ事は自己のありのままの姿を受け入れることで長所、短所を認め、自分と良い友人となることや健康、仕事、精神と霊的側面などの自己管理を良くし、自己を尊び高めること、隣人との良い関係のことである。自己を真に愛するといふ事は、ナルシストになることや利己愛ではなく、自己愛と隣人愛の両方ではなくてはならないということをまなぶことができた。

キリスト教の授業や礼拝を通じて私は、改めて宗教の大切さを感じる事ができた、自己を愛することの大切さも学ぶ事ができた。これから先、

生きていくうえで神の存在を尊重する事や宗教の大切さなど礼拝や授業で学んだ事をわすれないうえに、生きたいと思ふ。



礼拝感想文

「新しい歩み」

単立盛岡チャペル

牧師 水田賢次 先生

社会福祉学部 社会福祉学科

一年 小田桐 茉耶

私が後期の礼拝の中で聞いた説教で、「新しい歩み」というのがありました。私は、これを聞いたとき自分は新しくできた道を歩いているのかと考えました。私には、なりたいものがあります。それは、特別支援の教員です。障がいをもって子供たちのために自分は何かできることはないかと思ひ、弘前学院大学に入学しました。ですが、入学をしてあと少して一年になります。私は何かやったのかと考えるようになってきました。大学に入学する前から私は特別

支援の教員になりたいと言っていました。自分から動いたことはありませんでした。ただ、障害のことしか調べていなくて、実際の現場は見えていませんでした。そんな私が本気になるのかと日々思っていました。障がい者の方と話す機会があったときもうまく話しかけることができませんでした。このことを今でも後悔しています。私は、せっかく新しく歩くはずの道を自分で潰していたのです。ですが、この説教の中にあった聖書ピリピ3:13、14に「兄弟たちよ。

私は、自分はずでに捕えただと考えてはいません。ただ、この一事に励んでいます。すなわち、うしろのものを忘れ、ひたむきに前のものに向かつて進み、イエス・キリストにおいて上に召してくださる神の栄冠を得るために、目標を目指して一心にはしているのです。」と書かれています。私は、このことを聞いて後悔したことをいつまでも引きずって、何も変わらないということをお教えられました。私は、できなかつたことをいつでも引きずってききました。過去を振り返ってもうそこには何もありません。あるのは、後悔だけです。

そんなことのために自分の時間を費やすのはバカバカしいと思ひました。過去は変えることは出来ないけど、過去のことを生かして未来は変えることができると思ひました。大きな目標に近づいために小さなゴールをたくさん作っていきたくいです。失敗しようが成功しようが新たにゴールを作ったその先その先に歩いて生きたいです。目標に向かつていけば、後悔することもあるし、立ち止まることもあると思ひます。ですが、そこで諦めないで別の方法を探していけば、新たに見つけることができます。今まで、止めていた足を一歩ずつ動かしながら特別支援の教員になるという目標に近づいていけるように頑張っていきたいと思ひています。

人はどんな時に新しく歩みが始まるのかと思ひました。行動を起こすとき必ずそこには「動機」が存在します。動機によって人は歩いていきます。動機が毎回毎回変われば自分のやろうとしていたことが見えなくなってしまうと思ひました。目標に向かつて一生懸命にすることが大事なことが、私はなぜそこに向かつているのかという動機も大事なことだと考えました。動機がないならその目標に向かつて意味がないです。動機はその人を形作るための大きな土台だと思ひています。私は、どんなに失敗や後悔をしたとしても動機を忘れたことはありません。なぜなら、なりたいたと思ひたことのことを思い出したりにしているからです。その時の自分の感情も一緒に思い出します。たとえ、歩むはずの道に足を付けることができなくても想いだけでそこには存在しているのです。想いだけでは、何も考えることができないかもしれませんが、自分というものを見失うことはありません。新しい歩みをしようという人がいたら私は、動機も大切にしてほしいとお願いするでしょう。最初は、誰にも認められなかつたが、次第に認められる人が現れて、そのうちお互いがお互いを支えていくことになるか

からです。
だからこそ私は、新しく歩むこの道にはゴールと動機が必要不可欠だと思っています。何があつ

てもこのことを忘れずに特別支援の教員になるというのを実現させたいと思っています。

「キリスト教の結婚観について」

社会福祉学部 社会福祉学科

一年 佐々木海斗

キリスト教の結婚は、「一夫一婦制」の結婚であり、一人の人が複数の異性と結婚する多婚や重婚や同性と結婚する同性婚は聖書の教えに基づくキリスト教の結婚ではない。ここから分かるのは、キリスト教は日本と同じ一夫一婦制を用いているというのである。私は、一夫一婦制が良い制度だと思ふ。なぜなら、一夫一婦制だと複数の異性とみだらな行為を行ってしまい、真実の愛というのを見つけることができ

ずそのまま人生を終えてしまうのは、悲しいことであり、不幸なことではないかと私は思う。キリスト教では結婚には二つの意味を持っているという。第一は、男と女が性的、心理的、経済的に結合することである。第二は、子孫を残すことである。妻は夫を助ける役割があり、もちろん、夫も妻を助けなければならぬが、夫は妻の助けが必要であり、その助けなしでは社会的な面、精神的な面、

性的な面において不具合が生じることがある。これを知り私は、確かにその通りだと思つた。まず、人間が幼い時に親の助けがあるのではなんとか日常生活を送ることができ、大人になると親の助けが無くなり自立ということになるが、その自立にも限界があるので、その時に夫婦という存在が大切になってくる。夫婦になるには結婚式というのを挙げる必要があり、例えば教会で結婚式を挙げると、牧師さんが誓いの言葉という場面がある。そこでは、牧師さんがまず新郎に向かい、「病める時も、健やかなる時も、富める時も、貧しき時も、妻として愛し、敬い、慈しむ事を誓いますか?」と聞き、続いて新婦にも同様のことを聞き、二人が「誓います」と言い、誓いのキスをすることで結婚が成立したこととなる。この誓いの言葉には、互いがどんな時、状態で

あつても愛し支え合うことをするかというのを問われており、妻と夫には互いに助ける役割があると言われているように、二人が助け合うことで、生活を送る中で様々な問題が起こつた時も、一人で解決できそうにない問題でも夫婦だからこそ解決し乗り越えていけることがある。次に、子孫を残すこととは、人類を増やすこと以外に自分の持っている思想や信仰している宗教を後世に伝えるためではないかと私は思う。なぜなら、自分が良いと思うことは伝えたいものですし、自分が信仰している良い事があつた宗教があつたなら、自分の子や孫にも幸せになつてもらいたいので子孫を残すことを重要としているのではないかと思ふ。

次に、イエスは「神は人を男と女をお造りになり、やがて二人は一体になる。だから二人はもはや別々ではなく、一体である。」と言われた。ここで、「一体になる」とは、肉体的な結合である性的な関係だけではなく、精神、感情、物質、財政生活すべてを言い、男と女が「一体になる」とは二人が完全にその肉体と精神と霊が一つになることを意味しているのである。外面的には二つであるが、内面的には一つである。しかしこれは、お互いが自分の人格をもっており、お互いが尊重し合い、補い合うときに「一体になる」のである。つまり、夫婦というのは二人の間で成り立っているものだが、その二人は別々なものではなく精神的につながっているということなのである。

最後に、物事の始まりには必ず終わりが存在し、これは結婚にも当てはめることができ、それが離婚なのである。聖書の教えでは例外的な離婚を除き、離婚に対して否定的な立場をとっている。理

由としては前に述べたように、二人はもはや別々ではなく、一体なので神が結び合わせてくださったものを、人は離しては

ならない。私は同じく、離婚には否定的な考えを持っており安易にするような行為ではないと思う。

二〇二〇年度 主題と主題聖句

主題 「主につながり、
主の言葉の内に生きる」

主題聖句

あなたがたがわたしにつながっており、わたしの言葉があなたがたの内にもあるならば、望むものを何でも願いなさい。そうすればかなえられる。

ヨハネによる福音書15章7節

二〇二〇年度
行事予定

一年生リトリート
実施時期開催検討中
南田温泉ホテル
アップルランド

- ・入学記念礼拝
4月9日(木)
10時20分
- ・学生宗教委員研修会
4月18日(土)
12時00分
- ・三年生リトリート
5月28日(木)
11時00分
- ・創立記念礼拝

6月18日(木)
9時00分

教職員研修会
10時15分

・秋の特別礼拝
11月12日(木)
10時30分

・クリスマス礼拝
12月10日(木)
16時00分

音楽の夕べ
18時30分

・卒業記念礼拝
3月12日(金)
10時00分

編集後記

「反面教師」という日本語がある。韓国語では「他山の石」という反面教師と似た言葉がある。

これは「反面教師」よりもっと広い意味をもつ。それは、自分の石を研ぐのに役立つ他の山の石という意味で、他人の失敗や過ちが自分自身に刺激を与え、成長させること

があるという意味である。「たてごと」は、この世に起きているすべての出来事を見る目を養い、自己の成長のために、特に人格的成長や信仰的成長のために用いられる機関誌となることを祈る。

(編集長 楊尚眞)

今年度の或る授業で、鈴木大拙の『日本の靈性』を読んだ。鈴木によると、鎌倉仏教において「日本的な靈性」の自覚が発現したのだという。問題は「日本的」ということだが、これを言うことは

「非日本的な」靈性の存在も考えているわけだ。どちらかが正しいという話ではなく、其々が人類史の中で生きている。これを忘れないようにしたい。

(鎌田 学)

今年は、何という年になったことでしょうか。景気の落ち込み。今年に入つてのコロナウイルスの蔓延。特に、中国への忖度によってか、同じ島国でありながら、ほぼ完

全に水際作戦を成功させ、マスクも充実させている台湾に比較して、世界の中でも最も危険な国の一つにされてしまった、この国の現状。本当にこれからの時代を憂慮せざるを得ない現状ですが、皆様、共に祈ることから始めましょう。(柘植秀通)

学生の礼拝感想文を読み、また看護学実習などを通して感じることは、礼拝での聖書や説教での教えが学生の支えとなり、人としての成長につながっているということですが、卒業生の皆さんは、これから社会人として様々な経験の中で更に成長し、そして人を敬う心と自身を大切にすることを忘れずに過ごしてほしいと思います。(木田優子)

コロナウイルスの感染拡大への不安の中、学生・教職員の皆様の健康を切に祈ります。この事態の早い終息を願うばかりです。(大坊幹子)